

ホームドクター

赤松

青海

人物

織田 銳哉（としや27）内科医

笈俊光（76）織田の患者

笈英雄（46）笈の息子

不知火千早（しらぬい52）厚生労働大臣

司会

受付員（40代女性）

○大講堂

講堂内には白衣の青年らがひしめく。
正面スクリーンに「ホームドクター制度推進計画一期生 任命式」と表示。
司会「それでは、厚生労働大臣、不知火千早様から激励の言葉を頂きます」

1

不知火千早（52）、登壇し、一礼。
千早「まずはホームドクター一期生として任命されますこと、心からお祝い申し上げます。ホームドクター制度推進計画の総責任者、不知火でございます」

織田鋭哉（27）、希望に満ちた表情で千早をみつめる。

千早「皆さんもご承知でしょうが、我が国は山間部を筆頭に医療崩壊の瀬戸際に立たされていきます。高齢者は増え、医療従事者の負担は増え、常に人手不足。拠点病院が遠く、ケアが困難な地域も増えております」
千早、マイクを取り、舞台上を巡回しながら演説し始める。

2

千早「今こそ地域が救われねばならない。信頼に基づいて患者から認証を受ける、ホームドクター制度の拡充が必要なのです」
どこからか拍手が起こり織田も拍手。
千早「皆様のご活躍、期待しております」

千早、拍手を受けながら深く一礼。

3

○砺波診療所・外観（雪）

T 「半年後」

広い駐車場にワゴン車がある。
雪が降り、薄く積もっている。
「砺波診療所」の看板。

○同・診察室（雪）

織田、困った表情でカルテを見る。

織田「笥さん。血糖値、先月より酷くなってる。心当たりは？」

カルテの血糖値欄は4+とある。

笥俊光（76）、そっぽを向く。

笥「知らん」

4

笥英雄（46）、申し訳なきさそう、

英雄「多分、朝食べてるからだと思います。

急に検診があると言い出して……」

織田「……あのね、検診前は朝食控えてねって言ってませんでした？食べると数値高く
出ちやうかも知れないって」

笥「お前は俺の家内か」

織田「一応ホームドクターって立場だから、
それくらいには信用して欲しいですよ」

笥「俺がいつお前を信用するって言った？そ
もそも長生きしたいなんて思っていない」

織田、目を細める。

英雄「……縛られるのが嫌いなんです」

織田「大丈夫です。まだお試し期間なので。

信用してくれたらここにサインを——」

織田、タブレットの署名欄を見せる。

笥、無視して立ち上がり、退室。

英雄「……すみません。医者嫌いで」

織田「大丈夫ですけど、長生きしたくないと
いうのは……。何かあったんですか？」

英雄「その、お袋が数年前に……」

織田「……変な話してすみません。通院が難しければオンライン診療もできますので」

織田、タブレットを示す。

英雄「助かります。親父に使えるか分からないけど」

英雄、頭を下げ、そのまま退出。

織田、机に突っ伏し、ため息をつく。

窓の方に顔を向けると、花瓶の花が枯れているの気づく。

○商店街（夜）

冬の装いで街を歩く人々。

織田の正面に「砺波生花店」の看板。

織田「閉店ギリギリだな……。あ」

算が店から出て行くのが見える。

算の手には花を買ったポリ袋。

織田「算さん、こんばんは」

算、バツが悪そうに去ろうとする。

織田「花、見てたんですか？」

笥「お前には関係ない」

織田「……スノードロップ」

笥、はつとした表情で振り向く。

織田、店前の花が閉じかけたスノード

ロップを眺める。

織田「綺麗ですね。花閉じかけてるけど」

笥「……もう夜だ。スノードロップは夜に花を閉じて、昼にためた熱を閉じ込める」

織田「お詳しいですね」

笥「家内が好きだった。もう死んだけどな」

織田、何も言えず、花を眺める。

笥「お前、何人の死を看取った？」

織田「……いや、ないです」

笥「なら飾るのはやめろ。こいつはな、希望って花言葉がある」

織田「それは素敵じゃないですか？」

笥「家内が教えてくれた。……けど家内の病室に飾ったこいつは、すぐ仏壇に移された。慰めって花言葉もあるらしい」

スノードロップの花が完全に閉じる。

笥「希望なんて持たない方が楽だ」

織田「……それでも僕は、あなたを救いたい
ですよ。ホームドクターとして」

織田、真剣な表情で笥を見つめる。

笥、フンと鼻を鳴らし、立ち去る。

○笥の家・玄関前（夜）

家庭菜園の跡が庭にある古い一軒家。

英雄、車から出て玄関に向かう。

○同・玄関（夜）

英雄、引き違い戸をあけ、家に入る。

玄関前の隅に桶と柄杓、線香、ポリ袋
に入ったスノードロップがある。

笥「おう、おかえり英雄」

英雄「……親父、これ」

笥「ああ、2月17日が近いからな」

英雄「でも予報だと冬將軍が来るって……」

笥「死んだ日は変わらん。寒いから閉める」

英雄、不満げな表情で戸を閉じる。

○ 砺波診療所・診察室（雪）

窓の外は豪雪。

窓際の花瓶にはスノードロップ。

スノードロップの花が閉じている。

織田、不安そうに窓の外を見る。

13

○ 同・待合室（雪）

患者は誰もいない。

受付員（40代女性）、欠伸をする。

テレビニュースに「2月17日16時

北陸全域に大雪警報」の緊急速報。

○ 同・診察室（雪）

織田、溜息する。

織田「……もう閉めるか」

廊下から足音がし、受付員が入室。

受付員「織田先生！ 寛さんからお電話です！

お父様が倒れたと！」

織田、ひったくる様に受話器を取る。

織田「織田です！ どうされました？！」

14

英雄の声「あの、親父がお袋の墓参りに行つて、車から出たら倒れて！」

織田「墓参り？この豪雪の中で？」

英雄の声「言ったけど聞く耳持たなくて！」

織田「救急には？」

英雄の声「かけたんですけど、この豪雪で到着に10分以上かかると……」

織田、窓の外の吹雪を見て唸る。

英雄の声「先生！どうすればいいですか？」

織田、ふと見た先にはタブレット。

織田「……オンライン診療」

英雄の声「え？オンライン？」

織田「これスマホですよ。だったら出来る！状況をこちらに見せて！応急処置の指示をします！一度切ります！」

○ワゴン車内（雪）

座席を倒して筧を寝かせている。

英雄、スマホで厚着した筧を映す。

織田の声「OK！まず上着を脱がせて！」

英雄 「は？体温めないと！」

織田の声 「状況からして笥さんのショックは
急激な温度変化が原因です！徐々に体温を
上げます！呼吸はありますか？」

英雄 「ありますけど、とても弱そう……」

織田の声 「心臓マッサージも行ってくださ

い！強く！1分百回くらいのペースで！」

織田、心臓マッサージの姿勢を示す。

英雄、見よう見まねで笥の胸を押す。

英雄 「親父！戻ってこい！戻ってこい！」

笥、反応がない。

織田の声 「英雄さん！頑張って！」

英雄 「戻って……！戻って……、来い！」

笥、それでも反応がない。

英雄、押すペースが弱くなっていく。

織田の声 「……笥さん！起きろッ！」

笥、急に咽せるように呼吸が戻る。

遠くから救急のサイレン音が鳴る。

英雄 「ヨッシャアアアア！」

織田、画面の中でガッツポーズ。

○総合病院・病室

笥、病室のベッドで天井を見ている。
視線を移すと、窓際に飾られた花の開
いたスノードロップが見える。

織田の声「あ、目覚められましたか」

織田、笥の枕元に来て座る。

笥「……夢を見た。家内の夢。起きろって。

……久しぶりに家内に怒鳴られた」

織田「それは……、よかったですね」

笥「ああ。三途の川も渡ってみるもんだな」

織田「やめて下さい。帰ってこれなくなる」

笥「で考えた。残りの人生の意味。……ここ

で死ぬと、花柄の箸、机の上の花瓶、家庭
菜園の残骸にあいつを思い出せなくなる」

織田、徐にタブレットを出す。

織田「僕をホームドクターにしますか？」

笥「……癩に障るな。やっぱやめる」

織田「そんな！僕頑張ったんですけど！」

織田、笑いながらタブレットを差し出
し、笥から署名を受け取る。

赤松

青海